

## 懐古

## 八十年

絵と文

金子繁治



## 【人力車】

明治二十年、国鉄東海道線が横浜から国府津まで開通して藤沢駅が誕生しました。これを機会に半農、半漁の寒村片瀬は、富士山を始めとする海上の景勝をバックに、住みよい保養地と謳われて、当時の施政府高官、実業家、文士等の住居別荘が急増しましたが、まだ江ノ電はありません。

東京横浜方面への通勤は人力車のみ。その数何と三〇〇台。朝夕人力車の演ずる混雑は、蟻の行列に似てせわしく、壮観だったことでしょう。

威勢の良さでは天下第一の人力車稼業も時代の流れには勝てません。明治三十年のころ、江之島電気鉄道ほか数社が電気鉄道を開設する計画が起きました。死活問題だ！と人力車組合や地元住民の大反対も続き騒然となる。

反対派だった村の素封家山本庄太郎氏が賛成派に変わって土地提供もあり、径路変更の結果円満解決。明治三十五年九月一日、藤沢〜片瀬間に江ノ電が開業しました。